

開講年度：2026

科目名	心理学・行動科学 Clinical Psychology	題目（副題）	
担当教員、教員連絡先内線	鷲塚 伸介 他	5262	
学年、講義期間、曜日・時限	3年次 前期（随時）	水曜・4時限 木曜・4時限	
単位数、講義室	1単位 医学科第2臨床講堂	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	授業達成目標	
	M21カリ・医学		
	温かい人間性や高い倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけ、社会の健全な発展のために行動できる。	人間は身体的存在であるとともに、心理的、社会的、実存的存在でもある。患者に対して人としての畏敬の念を持つことは、患者に接する際の基本的態度といえる。その素養は人は誰でも生来持っているものではあるが、学習によって身につく部分も大変に大きい。心理学や行動科学の講義を通じて、医療者として期待される人間観を、個々の学生が生涯にわたって涵養する基礎的知識を修得することが授業の達成目標である。	
	医師としての高い見識と誠実な態度を身につけ、病める人を救う強い情熱を持っている。	医師としての高い見識や誠実な態度は一朝一夕に身につくものではなく、生涯にわたっての自己研鑽によって得られるものである。心理学や行動科学の講義を通じて、「高い見識」「誠実な態度」とはいかなるものかを考える土台となる知識を得ることが授業の達成目標である。	
	患者やその家族と十分な意思の疎通ができ、医療のみならず保健や福祉の関係者と良好な関係を築くことで、チーム医療を推進する能力を持っている。	真摯に耳を傾け、相手に合わせてわかりやすい言葉を伝えるというコミュニケーションの基本は、患者と十分に意思疎通をとるために必要なだけでなく、多職種からなる医療チームを円滑に活動させるためにも不可欠なスキルである。心理学や行動科学の講義を通じて、良質のコミュニケーションとは何かを理解し実践できるようになることが授業の達成目標である。	
	M26カリ・医学, M25カリ・医学, M24カリ・医学, M23カリ・医学, M22カリ・医学		
	対人関係形成・協働力 患者やその家族と十分な医師の疎通ができ、医療のみならず保健や福祉の関係者と良好な関係を築くことで、チーム医療を推進する能力を持っている。	真摯に耳を傾け、相手に合わせてわかりやすい言葉を伝えるというコミュニケーションの基本は、患者と十分に意思疎通をとるために必要なだけでなく、多職種からなる医療チームを円滑に活動させるためにも不可欠なスキルである。心理学や行動科学の講義を通じて、良質のコミュニケーションとは何かを理解したうえで、医師として必要なリーダーシップも発揮しつつそれを実践できるようになることが授業の達成目標である。	
	プロフェッショナリズム 温かい人間性や高い倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけ、社会の健全な発展のために行動できる。	人間は身体的存在であるとともに、心理的、社会的、実存的存在でもある。患者に対して人としての畏敬の念を持つことは、患者に接する際の基本的態度といえる。心理学・行動科学の講義では先人たちの深い思索のいくつかを紹介するが、それを通して医療者として期待される人間観を、個々の学生が自ら考え続ける素養を修得することが授業の達成目標である。	
臨床実習前の到達目標	・医学・医療の歴史的な流れ、臨床推論や生と死に係る倫理的問題、各種倫理に関する規範を概説できる。 ・患者の基本的権利、自己決定権の意義、患者の価値観、インフォームドコンセントなどの意義と必要性を説明できる。 ・患者のプライバシーに配慮し、守秘義務の重要性を説明できる。 ・必要な課題を発見し、他の学習者や教員と協力してより良い具体的な解決方法を見出すことができる。 ・講義、教科書、検索情報などを基に、自らの考えを示すことができる。 ・適切な態度で診断治療を行うことができる。 ・コミュニケーションの方法と技能およびその及ぼす影響を概説できる。 ・良好な人間関係を築くことができる。 ・患者・家族に共感することの重要性について概説できる。 ・チーム医療の意義を説明できる。 ・チーム医療における医師の役割を説明できる。 ・生涯学習の重要性を説明でき、継続的学習に必要な情報を収集できる。		
授業で学べる「テーマ」	環境共生、多文化協働、健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業のキーワード	医学心理学, 発達心理学, 思春期・青年期・壮年期・老年期の心理学, 行動科学, 治療者-患者・家族関係, メンタルヘルス, 死の臨床実務経験のある教員による授業科目		
授業の概要・一般目標	GE-01-05-01 行動科学に関する知識・理論・面接法を予防医療、診断、治療、ケアに適用できる。 GE-01-05-02 適切な環境調整や認知行動療法を提案できる。 GE-01-06-01 緩和ケアの概念を理解した上で、全人的苦痛(身体的苦痛、心理社会的苦痛、スピリチュアルペイン)を評価できる。		

授業の概要・一般目標	GE-01-06-02 がん・非がんの症状緩和の薬物療法や非薬物療法の概要を説明できる。 GE-03-01-01 ライフサイクル(胎児期、新生児期、乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、壮年期、老年期、終末期)の視点で、患者の課題を検討できる。 GE-03-01-02 ライフステージやライフイベントの視点で、健康管理と環境・生活習慣改善を検討できる。 GE-03-01-03 家族ライフサイクル・家族成員間関係・家族システムの視点で、患者・家族間の問題(虐待・ネグレクト等)を指摘できる。 GE-03-02-02 小児期の正常な精神運動発達について理解し説明できる。 GE-03-04-04 成人期と関連する課題(メンタルヘルス、仕事、運動習慣、不妊等に関わる課題)について理解し説明できる。 GE-03-05-01 老化に伴う臓器や身体機能の変化、それに伴う生理的变化、老化機構について理解し説明できる。 GE-03-05-03 老年症候群(歩行障害・転倒、認知機能障害、排泄障害、栄養障害、摂食嚥下障害等)について理解し説明できる。 GE-03-06-02 死に至る身体と心の過程の知識を活用して、患者や家族がもつ死生観を配慮できる。 GE-03-06-03 人生の最終段階における医療(エンド・オブ・ライフ・ケア)について理解し説明できる。
テキスト，教材，参考書	講義中に適宜紹介する。
履修上の注意	他の講義では扱わない psycho-socio-ethical に重きをおいた授業を行うので、真剣に取り組んでほしい。
授業の形式，視聴覚機器等の活用	講義形式 スライド，適宜プリント
成績評価の方法	第1回～第7回までの講義のうちから1つ、第8回～第15回までの講義のうちから1つの講義を選んで、レポートを提出する。レポートは各20点満点で採点し合計40点満点として扱う。 期末試験は60点満点で採点する。 レポートと期末試験の合計100点満点のうち、60点以上を合格とする。 試験では、本授業の学修目標への到達度および今後に必要な知識が定着しているかを確認します。
成績評価の基準	90 - 100点：秀 80 - 89点：優 70 - 79点：良 60 - 69点：可 全ての回に出席することを基本とします。この授業の達成目標に到達するために必要な出席回数（およそ8割程度）に出席が満たない場合は、単位を認めない場合があります。欠席した場合の学修補充については、医学部医学科履修及び試験内規に従います。
事前事後学習の内容	レジュメをeALPSにアップしておくので予習しておくこと。 課題については、授業中に適宜指示をする 本授業の単位修得には25時間分の時間外学習が必要です。
学生へのメッセージ並びにオフィスアワー（質問，相談への対応）	医学を学び、医療を実習していく上で、その基礎となる「医療にかかわる心理学・行動科学」の基本と、医療の実践において現在課題となっている問題について、具体的事例を交えながら講義を行うので、しっかりした心構えをもって学習してほしい。 オフィスアワー：火曜日12：00～13：00

授業日	第 1 回	4月 1日(水 4)	SB0s	GE-01-05-01 行動科学に関する知識・理論・面接法を予防医療、診断、治療、ケアに適用できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
G10	医学の心理学序論 心身相関に関連する生物学的、心理学的、社会学的緒論について学ぶ。			○対人関係にかかわる心理的要因を概説できる。 ○人間関係における欲求と行動の関係を概説できる。 ○個と集団に及ぼす文化的影響を例示できる。 ○文化・慣習によってコミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。 ○生理的動機（個体保存、種族保存）、内発的動機（活動、感性、好奇、操作等）及び社会的動機（達成、親和、愛着、支配等）を概説できる。 ○動機付けを例示できる。
担当	鷲塚 伸介			
授業日	第 2 回	4月 8日(水 4)	SB0s	GE-01-05-01 行動科学に関する知識・理論・面接法を予防医療、診断、治療、ケアに適用できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
G10	こころのモデル 精神分析理論からみた心の構造について学ぶ。			○欲求とフラストレーション・葛藤との関連を概説できる。 ○適応（防衛）機制を概説できる。
担当	鷲塚 伸介			
授業日	第 3 回	4月15日(水 4)	SB0s	GE-01-05-01 行動科学に関する知識・理論・面接法を予防医療、診断、治療、ケアに適用できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
G10	こころのモデル こころが人の行動様式にどのように関与しているのかを学ぶ。			○行動と人の内発的要因、社会・文化的環境との関係を概説できる。 ○ストレス - コーピング過程に関連する心理社会的要因を説明できる。 ○対人関係にかかわる心理的要因を概説できる。 ○人間関係における欲求と行動の関係を概説できる。 ○主な対人行動（援助、攻撃等）を概説できる。
担当	鷲塚 伸介			
授業日	第 4 回	4月22日(水 4)	SB0s	GE-03-01-01 ライフサイクル(胎児期、新生児期、乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、壮年期、老年期、終末期)の視点で、患者の課題を検討できる。 GE-03-02-02 小児期の正常な精神運動発達について理解し説明できる。 GE-03-04-04 成人期と関連する課題(メンタルヘルス、仕事、運動習慣、不妊等に関わる課題)について理解し説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
G10	こころの発達 / ライフサイクル 乳児期、幼児期、前思春期、思春期、青年期の心理的発達の特徴について学ぶ。			○こころの発達の原理を概説できる。 ○こころの発達にかかわる遺伝的要因と環境的要因を概説できる。
担当	本田 秀夫			
授業日	第 5 回	4月30日(木 4)	SB0s	GE-01-05-01 行動科学に関する知識・理論・面接法を予防医療、診断、治療、ケアに適用できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
G10	パーソナリティについて 性格について、その概念、類型、精神障害との関連について学ぶ。			○パーソナリティの類型と特性を概説できる。 ○パーソナリティの形成を概説できる。
担当	萩原 徹也			
授業日	第 6 回	5月13日(水 4)	SB0s	GE-01-05-01 行動科学に関する知識・理論・面接法を予防医療、診断、治療、ケアに適用できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
G10	人の行動の基盤 人はどのようにして行動を変えていくのか、その基盤となる理論について学ぶ。			○本能行動と学習行動（適応的な学習、適応的でない学習）を説明できる。 ○レスポナント条件付け（事象と事象との関係の学習）とオペラント条件付け（反応と結果との関係の学習）を説明できる。 ○社会的学習（モデリング、観察学習、模倣学習）を概説できる。
担当	鷲塚 伸介			
授業日	第 7 回	5月20日(水 4)	SB0s	GE-01-05-01 行動科学に関する知識・理論・面接法を予防医療、診断、治療、ケアに適用できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
G10	脳からみたこころ / 神経心理学 大脳皮質その他の脳部位と高次精神機能との関連について学ぶ。 脳機能からこころを解明するアプローチについて学ぶ。			○行動と知覚、学習、記憶、認知、言語、思考、性格との関係を概説できる。 ○行動の脳内基礎過程を説明できる。 ○行動と人の内発的要因、社会・文化的環境との関係を概説できる。 ○脳機能の変化と精神神経疾患との関係を理解する。
担当	篠山 大明			
授業日	第 8 回	5月27日(水 4)	SB0s	GE-01-05-01 行動科学に関する知識・理論・面接法を予防医療、診断、治療、ケアに適用できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
G10	患者・家族と治療者の関係 人間は関係に基づいた存在であるという観点から、治療者・患者・家族関係について考え、学ぶ。 共感・受容を基本とした人と人との関係こそが、治療的な契機を孕むものであることを学ぶ。			○効果的な対人コミュニケーションを説明できる。 ○話し手と聞き手の役割を説明でき、適切なコミュニケーションスキルが使える。 ○適切な治療関係について説明できる。 ○治療関係のなかで、患者側に生じる様々な心理を説明できる。 ○治療関係に影響を及ぼす要因について説明できる。 ○治療関係における治療者側の注意点を説明できる。 ○家族をとりまく状況について学ぶ。 ○転移について説明できる。
担当	萩原 徹也			
授業日	第 9 回	6月 3日(水 4)	SB0s	GE-03-01-01 ライフサイクル(胎児期、新生児期、乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、壮年期、老年期、終末期)の視点で、患者の課題を検討できる。 GE-03-05-01 老化に伴う臓器や身体機能の変化、それに伴う生理的变化、老化機構について理解し説明できる。 GE-03-05-03 老年症候群(歩行障害・転倒、認知機能障害、排泄障害、栄養障害、摂食嚥下障害等)について理解し説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
G10	老年期の心理と高齢社会 超高齢化社会を迎え老年期に特徴的にみられる心理的問題を理解する。			○高齢社会について説明できる ○高齢者の心理的特徴について理解する ○認知症患者や家族の心理について学ぶ
担当	大屋 大			

授業日	第 10 回	6月10日(水 4)	SB0s	GE-01-05-01 行動科学に関する知識・理論・面接法を予防医療、診断、治療、ケアに適用できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
G10	体質論・遺伝医学とその心理的問題	遺伝性疾患を扱う際にみられる患者や家族の心理的問題を理解する。		○ 遺伝性疾患であることが明らかとなった患者や家族の心理過程について考え、説明することができる。
担当	横塚 紗永子			
授業日	第 11 回	6月17日(水 4)	SB0s	GE-03-01-03 家族ライフサイクル・家族成員間関係・家族システムの視点で、患者・家族間の問題(虐待・ネグレクト等)を指摘できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
G10	児童虐待について	虐待について理解する。		○ 虐待が増加している事実を理解する。 ○ 虐待の種別を理解し、説明できる。 ○ 虐待の通報義務、そのシステムについて理解する。
担当	今井 淳子			
授業日	第 12 回	6月24日(水 4)	SB0s	GE-01-05-01 行動科学に関する知識・理論・面接法を予防医療、診断、治療、ケアに適用できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
G10	行動変容の技法	認知行動療法や家族療法を中心に、行動変容の技法について学ぶ。		GE-01-05-02 適切な環境調整や認知行動療法を提案できる。 ○ 医療における患者支援(自律性支援)や保健指導を概説できる。
担当	公家 里依			
授業日	第 13 回	7月 1日(水 4)	SB0s	GE-01-05-01 行動科学に関する知識・理論・面接法を予防医療、診断、治療、ケアに適用できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
G10	行動変容の技法	森田療法や内観法など日本(東洋)で生まれた行動変容の技法について学ぶ。		GE-01-05-02 適切な環境調整や認知行動療法を提案できる。 ○ 森田療法について概説できる。 ○ 内観法について概説できる。 ○ マインドフルネスについて概説できる。
担当	鷲塚 伸介			
授業日	第 14 回	7月 8日(水 4)	SB0s	GE-01-05-01 行動科学に関する知識・理論・面接法を予防医療、診断、治療、ケアに適用できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
G10	医療チームの人間関係	病む人への効果的な援助を行うために医療チームの人間関係が重要であることを理解し、多様な職種のスタッフと協働し、適切なリーダーシップを発揮できるようになる。		GE-01-05-02 適切な環境調整や認知行動療法を提案できる。 ○ ネットワーク型あるいは協働型の医療チームの重要性が増すことを理解し、伝統的な医療チームとの違いを説明できる。 ○ 医師-患者関係をチームワークの観点から見直し、メディカルモデルあるいはリハビリテーションモデルによるアプローチを効果的に用いることを理解する。 ○ 精神科病棟における「攪乱現象」を知り、チームの機能回復のためのリーダーが為すべきことを理解できる。 ○ 協働型の医療チームにおけるリーダーシップのあり方について理解し、実践に備える。 ○ 自分自身とスタッフの心身の健康を守るために、互いにサポートすることにより健康状態を維持することの重要性を理解し、実践に備える。
担当	杉山 暢宏			
授業日	第 15 回	7月15日(水 4)	SB0s	GE-01-06-01 緩和ケアの概念を理解した上で、全人的苦痛(身体的苦痛、心理社会的苦痛、スピリチュアルペイン)を評価できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
G10	疾病受容について	医療における「疾病」「死」のもつ意味を整理し、ターミナルケア、がんの告知後の当事者の心理過程を理解する。 ○授業のふりかえりを入力する		GE-01-06-02 がん・非がんの症状緩和の薬物療法や非薬物療法の概要を説明できる。 GE-03-06-02 死に至る身体と心の過程の知識を活用して、患者や家族がもつ死生観を配慮できる。 GE-03-06-03 人生の最終段階における医療(エンド・オブ・ライフ・ケア)について理解し説明できる。
担当	高橋 徹			
授業日	第 16 回	7月21日(火 4)	SB0s	
講義室	医学科第2臨床講堂			
G10	期末試験			
担当	鷲塚 伸介, 本田 秀夫, 福山 大明, 萩原 徹也, 大屋 大, 公家 里依, 横塚 紗永子, 今			